
最大級の勘違い

ブンゲー部

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最大級の勘違い

【Nコード】

N1063F

【作者名】

ブンゲー部

【あらすじ】

幼なじみって関係は、マンガなんかじゃ、素直に慣れない関係って感じだけど、素直すぎるのもどうだろうな

（前書き）

ネタバレはしたくないが、、

俺の幼なじみは、必要以上に男らしい。まあそこが、俺があいつを、好ましいと思う点ではあるんだけど。

〈最大級の勘違い〉

あいつと俺は、同い年、家が隣、親同士が仲がいいという、一歩間違えればマンガのような展開に突入しちゃうような環境に生まれてきた。ちなみに、誕生日が三日違いと言うことに、作物的なものを感じなくもないが、そんなことを親に聞けるわけもないが。

まあ、そんな訳であいつに会わない日なんて、この15年、数日しかない。

でも、そんな関係もこの春でおしまいになっちゃったんだけど。お互いに別々の高校に進学しちゃったからね。あいつは勉強はろくにできないが、運動だけはすごくスポーツ推薦で寮生活なんてしちゃってる。

逆に僕は、運動はからつきしで勉強だけはできるから、よく周りからはデコボコンビなんて言われてたな。

なんて思い出に浸っても、あいつが帰ってくる訳でもないし、俺は俺で新しい環境を楽しんでる。あいつも、それなりに楽しんでるみたいだしな。

って、思いながら高校生活を送ると思ってたんだが、

「なぜ、おまえがここにいるっ？」

俺の部屋でくつろぐあいつがいた。

「なぜって、なんで？」 いや、もういい。こいつは本気で、ここにすることが当たり前だと思っているんだろうな。

「いや、部活が休みだから、来てみた」

あー、そーかい。俺がバカだった。おまえはそんなやつだったよな。

「まあ、いいけど、俺これから知り合いと遊び行くけど、おまえも来るか？」

「いくいく！ でも、いいの？ ついてって」

「別段問題がないから、言ってるんだよ。デートでもないし」

「ふーん、ならいいけど」

「で、いつまでいるんだ？」

「いつまでって？」

「着替えるから、出てけよ」

「別に、恥ずかしがることじゃないでしょ」

「ああ、そうだよな」

まあ、俺とこいつの仲だしな。

やつは連れてくるんじゃないかった。確かに、みんな楽しそうだから、それはいいけど、なんか必要以上に疲れた。なんでかって、

「あの子と付き合ってるの？」

俺が女の子と話す度、聞いてくる。なにがそんなに気になるのやら。確かに幼なじみの恋愛事情は気になるんだろうが、それにしても過剰に反応しすぎ。

まあ、こいつもこいつで楽しいみたいだから、今日のところは許してやるか。

「今度、この近くで大会あるんだよね。よかったら、みんなで応援に来てよ」

というか、いつの間にかみんなと仲良くなってるし。

というわけで、大会の日。俺は会場に友達と来ていた。

「で、おまえはなんで、大会になんて俺たちを呼んだ訳？」

「いや、おまえが誰とも付き合ってないって言うからさ」

そいうことね。まあ、そいうことなら協力しないこともない。

「で、もしこの大会、優勝できたら、デートしたい人がいて」
「はいはい、わかったよ」

この間、こいつが気にしてた奴はわかる。そいつに話はつけとい
てやるよ。

「まあ、そういうことだ」

「わかったよ。頑張れよ。あそこから応援してるから、またな」
「ああ」

大会は進み、決勝戦。あいつは無事、進んでくれた。まあ、あ
いつの実力からすれば、こんな大会で優勝するのも簡単なんだろうけ
ど。

予想通り、あいつの優勝で試合は終わった。

「よっしゃ、勝ったぞ。おい、約束覚えてるよな？」

「ああ、覚えてるよ。さつき、ちゃんと話して、オッケーもらつて
るよ。それに彼女もおまえのこと、気になってるらしいぞ」

「なんの話だ？ 俺がデートしたいのは、おまえだよ、おまえ」

「なにいつてるんだ？ 俺たち、男同士だぞ？」

「それがどうした？ 俺はおまえが好きなんだ。愛してるんだっ！」
「いや、だって、俺はてつきり」

どうやら俺たちは、最大級の勘違いをしていたらしい。まあ、そ
れはそれで過ぎたことだ。

「なにか違う気がする」

「いや、れっきとしたダブルデートだ。ただ相手のカップルが女
の子同士で、なんとなく男女で行動してるだけだ」

「まあ、いいや。いつか絶対に振り向かせてやる。絶対に」

「おまえじゃなく、かわいい女の子に言ってもらえたら、幸せなん
だな」

そんな悪態をつきつつ、俺はそんな悪い気はしなかった。

なぜかって？ 実は俺もガキの頃から、こいつのことが好きだったからさ。

＼HAPPY end？

（後書き）

なんか最後のほう、ぐだぐだになったような感じですが、これもまた愛嬌で

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1063f/>

最大級の勘違い

2011年10月5日05時27分発行